



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／矢島 實
- 副会長／矢島 進・井上保子
- 幹事／矢崎宏明
- 会報・雑誌・広報委員長／笠原祥一

■ 事務所／岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F

Tel/0266-22-6939・Fax/0266-23-6939・URL: <http://okayarc.org>・E-mail: [okayarc@amber.plala.or.jp](mailto:okayarc@amber.plala.or.jp)

■ 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

## 第 2506 回例会 2011 年（平成 23 年）1 月 18 日（火）

司 会：小口泰史 齊 唱：手に手つないで  
 点 鐘：矢島 實 ラッキーNo.：No.8 塚田保則  
 皆 勤 祝：小口哲男 39 年・杉田隆夫 33 年・宮澤由己 15 年・矢島 進 15 年  
 牛山幸一 10 年・井上保子 6 年  
 誕 生 祝：山岡正邦・杉田隆夫・笠原祥一・大橋正明・小口泰史  
 中村文明・原 史郎・中嶋孝一・林 尚孝  
 結 婚 祝：梅垣和彦・林広一郎



誕生祝

### 会長挨拶

世間は今、伊達直人という名前で寄付をするのが、はやっているようです。日本全国で連鎖反応のようになっていますが、良い事の連鎖反応なので結構なことだと思います。殺人事件のような嫌な連鎖反応ではないので、大いに広まってほしいものです。少しでも喜ぶ人がいるなら、やらないよりやった方が良くと思います。

我々ロータリークラブもつつじが丘学園にたびたび援助をしておりますが、ブームになる前にやっていてよかったとホッとしています。

連日最低気温がマイナス8度、9度という日が続いております。諏訪湖も全面結氷したようです。昔だったらこのぐらいの寒さは当たり前だったのですが、現代の暖房の行き届いた生活をしている身にはこたえます。しかし、冬来りなば春遠からじと申します。いま少しこの寒さに耐えて、春を待ちたいと思います。

本日のお客様をご紹介します。岡谷市教育委員会教育長岩下貞保様です。後ほど卓話をお願い致します。

### 幹事報告

- ・本日の理事会で承認されましたのでご報告いたします。
  - ▶拉致被害者支援として会員1人 100 円 4600 円を送金。
  - ▶つつじが丘学園にジュースを贈る。※12 月にクリスマスにケーキを贈る話をしたところケーキは他の方に頂く予定となっており違う物だと依頼があり要望を伺い再検討しました。

### 委員会報告

**ローター財団委員会** 2012～2013 年度ロータリー財団国際親善奨学生募集が届きました。応募希望の方や応募者等の心当たりのある方は委員会までお申し出下さい。詳細な書類をお渡しします。〆切 3 月 10 日。

**社会奉仕委員会** 「書損じハガキ回収運動」への協力をお願いします。書損じハガキ、未使用切手がありましたら 2/1(火)の例会まで例会日場受付で回収します。多くの方のご協力をお願いします。



## 卓 話 「岡谷市の学校教育の現状」

岡谷市教育委員会  
教育長 岩下 貞保 様

昨年暮れには、チャリティー募金を学校図書充実のためにご寄贈いただき、心より感謝申し上げます。

読書は、読解力はもとより、集中力の向上や心の安定に大きく寄与する。

子どもの生命に関わる事件事故がいつ起きても不思議ではない状況の中学校に勤務したことがある。空腹だと子どもはいらだち、指導に入れない。朝、おにぎりを一つ食べさせて指導が始まる。そんな折、全校一斉朝読書の報告を読み、翌年から朝読書を日課に位置づけた。200枚近いガラスが年間に割れていたが、朝読書を導入した年は、割れるガラスが半減した。

教育現場ではまだ発達障害という言葉は聞かれない時代で、非行グループの中に、すぐカットとなり、挑戦的で、自分の行動をいけないと分かっている、自分で自分をコントロールできない生徒がいたが、行為障害を持った、医療機関との連携が必要な生徒であった。発達障害は早期に発見し関係機関と連携して適切な支援をしないと、こうした二次障害を引き起こす。

学校現場では、発達障害への理解が進みつつあるが、まだまだこれからであり、研修の機会を持ち、特別支援教育コーディネーターにおいて支援体制を整えている。市教委では教育相談員が保育園を訪れ、より良い就学のために、観察・相談を行い、就学指導相談委員会で保護者の意向を大切に適正就学の判断を行っているが、この10年弱で対象児童生徒の数が倍増した。発達障害への理解が進んだ成果であると考えている。

長期欠席の児童生徒の内、病気や経済的理由等による欠席を除いて、年間30日以上欠席した児童生徒が不登校にカウントされる。不登校生の内には、不登校が継続している子も、学校復帰している子も含まれる。

市教委は、第4次岡谷市総合計画に不登校改善の数値目標を掲げ、子どもの育ちを支援する取り組みを進めてきた。県教委の郡市別公表を受け、21年12月に「不登校児童生徒支援チーム」を立ち上げ、最重要課題に不登校を位置づけ、今日を迎えている。

約半数が前年度から不登校が継続していて、二次障害が見られたり、家庭状況に課題が見られたりと継続の理由は様々である。そして半数は新しく不登校になる児童生徒で、その不登校のきっかけは、友人関係、家庭の急激な変化、本人に関わる問題が主で、いじめがきっかけとなるのは2パーセント強である。様々な事柄が複雑に絡んでいるので、支援は一人一人違って来るし、成果も一人一人異なる。家庭状況が大きな要因にもなるが、現実を保護者に正確に理解してもらうことは極めて難しく、保護者が変わることが改善の大きな要素になるケースも多い。

岡谷市には諏訪湖ハイツに中間教室があるが、昨年11月に不登校生親の会を立ち上げた。不登校の子どもを持つ親は、各々が苦しみを自分一人で抱えているので、互いの胸の内を共有することは、苦しんでいるのは自分だけではないという救いにつながる。こんなことをしたらこうだったと情報を交し合いながら、親が自己更新していく大切な機会になる。

支援チームでは、チェックリストを作成し、学校で月ごとに更新しながら、早期発見、早期対応に取り組んでいる。学校だけでは対応が難しい場合は、チームのケース会議で他機関との連携支援を行っている。各学校、校長が先頭に立って最重要課題の不登校対応に努めている。22年度上半期、新しく不登校になった児童生徒数は前年度に比べ減少している。登校するが教室に入れない生徒、人目を避けて夜間に登校する生徒もいる。来年度、各中学校に中間教室が設置され、人目を避けて登校できるようになるので、何人かの生徒が救われるのではないかと考えている。

人間関係が作れずに苦しんでいる子どもがたくさんいるが、今、子どもの人間関係は、とても危なっかしいものになってきている。子ども個々が持つ、育ってきた価値観、環境、経験等が違うから、感じ方や人との関わり方も違ってくる。一緒に遊ぶことが面倒くさいと感じる子、友達と遊ぶと疲れるという子が、結構多い。親子関係ですら家庭によっては同様で、子どもは慢性的に疲れていて、まさに現代社会の縮図と言えるかとも思われる。

また、場の使い分けが苦手で、やってはいけない場面で見当違いのことをして孤立する様子もある。我慢や忍耐が苦手で、すぐにへこたれる子どもも多いように感じる。人生経験が少なく、判断力も未熟な子ども同士故、あれこれとトラブルもある。時間をかけて解決する過程で、人により考え方や感じ方が違うことや人間関係の修復の仕方など様々なことを子どもは学び自立していくが、その大切なプロセスを、保護者のクレームで奪われることもある。そうした場合、学校は保護者対応に迫られ、本来の教育の使命が果たせなくなる。

子どものことで何かあれば学校へ連絡が家庭や地域から入る。子どもは生身の人間なので、日々色々なことが起こるが、もう少し、学校に頼ることを減らしてもよいと思う。

先生方の会議も多いのが実情で、日々の教材研究や、テスト等の採点処理から、実力を高めるために研修も積まねばならない。部活動指導にも多くの時間が割かれる。不登校の子がいれば、担任は朝の迎えや夜間や休日に学習指導もあつたりする。生徒指導は土日や昼夜を問わない。

こうして、先生方も慢性的に疲れていて、ストレスとうまく向き合っていかななくてはならない。時には心を病んで療養休暇を取るケースも生ずる。

すぐキレル子どもがいるようにすぐキレル大人もいて、自分さえよければいいという大人がいるように、自分さえよければいいという子どももいる。価値判断の基準をどこに置くか、極めてあいまいになっているのが実情で、「価値観の多様化」がよく言われ、何でもよいような錯覚が、大人社会にも子ども社会にもありそうだ。そんな子ども社会にあつて、時には、あんないい子がと思うような子が、内に深い人生の憂鬱を抱えていることもある。

こうした子どもの現状の背景については、様々なことが言われる。物があふれ便利さだけが求められたつけどという人もいるし、学歴社会や受験体制の弊害を言う人もいる。社会の構成員としての個以上に個人の利害が優先された結果だという人もいるし、国民誰もが認める倫理観がない国だという人もいる。核家族化の弊害を言う人もいる。若い者はという人にも出会うが、若い保護者で本当に立派な方々がたくさんいるし、団塊の世代にも困った人はたくさん見かける。個の問題だと思うし、「人の行為や言動には、その価値に高低がある」とつくづく思う。「何らかの言動や行為を起こそうとするとき、その価値を問う子どもを育てる」ことの重要性を思い、発達段階に応じた「善悪の判断」「可否の判断」「べきの判断(言動すべき対象・時・場など)」を、周囲がしっかり伝えねばならないと考えている。

言葉を失うことは、価値観や感じ方・考え方、行為まで失うことである。死語になってしまった言葉でよく言われるのが、物が氾濫した結果の「もったいない」であるが、「お天道様が見ている」「胸が痛まないか」「いけねえことはいけねえどう」と言って諭し叱ってくれる大人がいなくなった。

価値のあるものに気付く感覚を「感性」という。快適さや便利さのなかにどっぷりと漬かっていると、感性ばかりか判断力まで失われるといわれる。価値ある方向へ踏み出そうとする感情を「情操」というそうだ。そして、感性や情操を育むためには、体験し、それを表現し交換し合うことで、自分の感性と他人の感性を重ね合い、新たな気付きを自覚させることだという人がいる。

子どもが直面している様々な課題の要因は、自然体験や登山・キャンプ・川遊びなど様々な体験の不足、目的達成のための苦しみや喜びなどプロセスの不足、どんなに頑張っても思うようにならない挫折経験の不足、異年齢集団での自由遊びの不足、家庭でのお手伝いの不足、体を動かすことの不足などが言われる。

市長は教育のことを大切に考え、第4次岡谷市総合計画の前期5カ年の重点プロジェクトに「輝く子どもの育成」を掲げ、様々な施策に積極的に取り組んでくれている。未来を託す子どもの育ちを支援するために、子育て中の保護者を支えなくてはならない。教育に託された施策の一つが「子育て憲章実践ポイント」の有効活用であり、直接子どもを支援する施策が「放課後子どもの居場所づくり」で、教育委員が直接関わって、「市民総参加による子育てのまちづくり」の推進に努めている。昨年度、川岸、田中、湊の3小学校で試行的に組み組を始め、来年度5校の立ち上げに向けて取り組んでいる。地域の方々の力を借りて、子どもの持つ課題の要因と考えられることが、可能な範囲で補われることを願っている。

多くの方々に接し、あの人のようになりたいという憧れや夢をもつことができたり、認められることで、これでいいんだという自信につながったり、「いけないことはいけない」と教えられたりすることを願っている。

現状ということで、課題ばかりをお話させていただいたが、大多数の子どもは、心身ともに健やかに育っており、楽しく、向上心に燃えて学校生活を送っている。地域・保護者・学校・行政が、明るい未来の希望を共有し、真の意味で支え合える岡谷市にしたいと決意を新たにしている。まとまらない話になりご期待に応えられたか不安ですが、今まで同様、よろしくお支えいただけるようお願い申し上げます、終わりにさせていただきます。

## ニコニコボックス

1月11日

井上保子・牛山幸一・大橋正明・小口成人・小口雅弘・小口泰史・尾関秀雄・小野 仁・笠原祥一・笠原新太郎・小松正二・佐藤有司・白鳥修次・杉田隆夫・竹村一幸・中嶋孝一・中畑隆一・林 尚孝・林 裕彦・林 靖高・原 史郎・平沢清文・藤森睦美・宮坂 伸・宮澤由己・矢崎宏明・矢島 實・山岡正邦・山岸邦太郎・山崎典夫・塚田保則 新年あけましておめでとうございます。本年の宜しくお願い致します。

小野 仁・太田博久 僕らの母校が18年振りに箱根駅伝で総合優勝しましたので

1月18日

井上保子・牛山幸一・梅垣和彦・太田博久・大橋正明・小口雅弘・小口泰史・尾関秀雄・小松正二・高木昭好・中村文明・濱 透・林 尚孝・林 靖高・藤森睦美・宮坂 伸・宮澤由己・矢崎宏明・矢島 進・矢島 實・山岡晴男・山岡正邦・山岸邦太郎・山崎典夫・塚田保則 岡谷市教育長岩下貞保様ようこそお越しくださいました。本日は卓話をよろしくお願い致します。

濱 俊弘 忘年会の写真を頂きました。

## 出席報告

1/11 会員数46名、出席者32名、出席率69.57%、前々回訂正71.74%

1/18 会員数46名、出席者29名、出席率63.04%、前々回訂正76.09%

2010-2011 年度 R I テーマ  
地域を育み、大陸をつなぐ  
BUILDING COMMUNITIES  
BRIDGING CONTINENTS

